

## 平成 29 年度第 2 回横須賀市スポーツ推進審議会 会議録

■日 時 平成 29 年（2017 年）10 月 24 日（火）10:30～11:40

■会 場 横須賀市役所 1 号館 10 階第 2 委員会室

■出席者 横須賀市スポーツ推進審議会委員（敬称略 50 音順）  
委員長：田中靖和 委員長職務代理者：鈴木満  
磯部忠、加藤努、工藤幸久、東海林義勝、醍醐一朗、  
滝川満弘、武雅兄、野地武司、安田政樹、山口昭生

欠席

伊藤隆義、鈴木志保子

事務局（8 人）

文化スポーツ担当部長：野間俊行

スポーツ振興課長：植野不二夫

スポーツ振興課係長：柴崎正、蛭田茂穂

スポーツ振興課主査：石川勝人

スポーツ振興課担当者：平澤健太（記録者）

保健体育課長：鎌原徳宗

保健体育課係長：志村康浩

傍聴者 なし

■議事次第 開会

1 事務局あいさつ

2 議題

（1）平成 29 年度スポーツ関係事業進捗状況について

3 意見交換

（1）横須賀市スポーツ推進計画の策定について

■資 料 【配付資料】

1 横須賀市スポーツ推進審議会委員名簿

2 平成 29 年度スポーツ関係事業進捗状況

3 横須賀市スポーツ推進計画（案）

## 開会

事務局（主査）が、平成 29 年度第 2 回横須賀市スポーツ推進審議会の開会を告げた。

### 1 事務局あいさつ

□事務局（文化スポーツ担当部長）

みなさんおはようございます、文化スポーツ担当部長の野間でございます。本日は、ご多用の中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。本日の会議は、年間 4 回予定をしております、スポーツ推進審議会の第 2 回目でございます。事務局を代表しまして一言あいさつ申し上げます。

「スポーツの秋」ということもありまして、連日、各地でスポーツイベントや大会が行われております。スポーツ振興課事業のところで例を申し上げますと、9 月 3 日の学区対抗成人球技大会では、残暑の暑さが残る中、無事予定通り行われました。7 月の児童球技大会とは一味違った、力強いプレーが随所に見受けられ、横須賀の方々の、「スポーツに対する関心の強さ」や各学区内での交流の深さを垣間見ることができた大会でした。

体育の日には、よこすかスポーツフェスタを市内各所で開催しました。各主管団体の皆様にご協力いただき、不入斗公園内では、昨年度を凌ぐ来場者数を計上するなど、大盛況のイベントとなりました。当日は、心地よい秋晴れの下、小さなお子様が競技場を走り回る姿が、非常に印象深く心に刻まれております。また、「かながわパラスポーツ」の普及の一環として、昨年度に引き続き、「ボッチャ」のミニ体験会を実施しました。会場を北体育会館に移し、ニュースポーツとパラスポーツの両方を体験できるコーナーを用意しました。そのほかの会場でも、多くの市民の方にご参加いただき、スポーツの素晴らしさや普段身体を動かす習慣がない方に対し、運動する機会の提供をすることができたイベントとなりました。

スポーツ推進審議会委員の皆さまには、多くのイベントに足を運んでいただいたほか、直接の声援、時にはイベント運営にご協力をいただき、大変ありがたく感謝をしているところでございます。

本日の会議は、今年度の事業の進捗状況についての報告と、事前に送付いたしました、「横須賀市スポーツ推進計画」について、ご意見をより多くいただきたいという趣旨で開催をさせていただいております。

忌憚のないご意見をたくさんいただけたら幸いです。本日もどうぞよろしく願いいたします。

□事務局（主査）

それでは、これより議事にうつらせていただきます。スポーツ推進審議会条例第 3 条によりまして、議長は、委員長をお願いいたします。

□委員長

それでは、議事に入る前に、本日の定足数について、事務局からお願いします。

□事務局（主査）

定足数についてご報告いたします。スポーツ推進審議会条例第4条に「審議会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない」とあります。本日は14名の委員のうち12名のご出席をいただいておりますので、会議は成立いたします。

□委員長

次に、傍聴者の確認ですが、本日の会議の傍聴を希望される方はいらっしゃるのでしょうか。

□事務局（主査）

本日の傍聴者はいらっしゃいません。

## 2 議題

### (1) 平成29年度スポーツ関係事業進捗状況について

□委員長

事務局から説明をお願いします。

□事務局（主査）

A3の資料2をご覧ください。

平成29年度のスポーツ関係事業進捗状況について記載しております。事業名に下線が引いてある事業は、教育委員会事務局保健体育課の関連事業であり、下線がない事業は政策推進部スポーツ振興課の関連事業です。第1回の審議会以降では、7月23日の、第30回学区対抗児童ミニバスケットボール大会から、10月21日に行われた、横須賀市中学校駅伝競走大会まで行われております。そのうち、10月14日の、第49回横須賀市小学校児童陸上記録大会につきましては、当日、予備日両方とも悪天候の影響で、中止となりました。

選手等参加者数、観客数は記載のとおりとなっております。資料の中で参加者数と観客数が空欄になっている部分がございます。今から人数を申し上げますので、お手数ですが記載をお願いします。まず、7月27日の第51回神奈川県中学校総合体育大会開会式について参加者数は710名、観客につきましては集計を取っておりません。続きまして、8月4日の全国・関東大会出場選手激励会の参加者数は70名で観客は約100名となっております。最後に先週末に行われた横須賀市中学校駅伝競走大会の参加者は405名で観客は約5,000名となっております。各イベントでご参加、ご協力いただいた、委員の皆様、ありがとうございました。説明は以上となります。

□事務局（スポーツ振興課長）

スポーツ進捗状況に関連しまして、一件皆様にご報告があります。1月21日に開催予定の、第72回三浦半島県下駅伝競走大会については、今年度の開催を見送ることとなりました。年々交通量が増加してきたこともあり、警察署との協議の中で、コースの変更若しくは更なる交通規制の強化という点が挙げられました。横須賀市陸上競技協会とも打合せを進めてまいりましたが、コース変更については現実的に難しく、交通規制の強化についても、更なる警備員や走路員の増員等が条件となるため、平成30年度の開催に向けて、準備をしていくという意見にまとまりました。

□委員長

ただいまの説明につきまして質問・ご意見がございましたらお願いいたします。

⇒意見なし

### 3 意見交換

#### (1) 横須賀市スポーツ推進計画の策定について

□委員長

事務局から説明をお願いします。

□事務局（主査）

「横須賀市スポーツ推進計画」についてご説明いたします。第1回目の本審議会において、今年度、横須賀市スポーツ推進計画を策定する旨ご説明いたしました。今回は、現時点での素案をお配りしております。

スポーツ推進計画は全体で序章を含め6章の構成となっております。先ず、序章として、スポーツの定義的なものを載せました。続いて、第1章といたしまして、本計画の位置づけを、第2章といたしまして、策定にあたって1の目的として、スポーツ推進施策に関して、国、県及び関係スポーツ団体と連携を図りながら、総合的、計画的かつ行政組織の横断的な連携を図っていくことや、2の背景として、全庁横断的な計画を策定することとなったこと、3の計画の期間を平成30年度(2018年度)から平成37年度(2025年度)までの8カ年を予定していること、4の計画の対象範囲として、スポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、全ての部局間を横断的に各部局で所管するスポーツ関連の施策、事業を網羅し、連携して推進していくことや、合わせて地域経済の発展にもつながるスポーツの影響力にも着目し、大規模な大会等の誘致などによるスポーツコミッション、スポーツツーリズムにも取り組んでいくことなどを挙げています。

第3章といたしまして、スポーツを取り巻く現状と課題を取り上げました。1としてスポーツの経済効果です。これは先ほども申し上げましたように、「スポーツは、我が国社会に活力を生み出し、国民経済の発展に広く寄与するものである」とスポーツ基本法の前文にも謳われているように、スポーツが経済の発展及び効果に密接な関係があるこ

とを載せました。

2として、これは近年盛んに言われていることですが少子高齢化の進行です。

3として、コンピュータゲームの浸透などによりスポーツや外遊びをすることが少なくなるなどといった子供の体力低下です。

4として、今や社会問題にもなっている生活習慣病の増加です。生活習慣病は、今や健康長寿の最大の阻害要因となるだけでなく、国民医療費にも大きな影響を与えており、スポーツを習慣化することにより、生活習慣を改善し、健康で活力のある生活を送ることにつながることを載せました。

最後に5として健康寿命の延伸を挙げております。健康寿命と平均寿命には、かなりの差が認められ、運動・スポーツにより健康寿命が平均寿命に限りなく近づくような社会の構築を目指すことが重要となっていることを載せました。

第4章スポーツ推進施策として、1の目標で本市が行っている施策を、(1)「スポーツによる地域の活性化を図ります」から(8)「子どもの健やかな体を育成します」までの8つに分類して掲載しました。2の目標達成に向けた施策では、分類した目標に対して、現在行っている本市の施策及び事業名を掲載しております。

最後の第5章は進捗管理として「スポーツ推進計画」を実効あるものとするために、計画に位置付けた施策が具体的に執行されているかどうかといったことについて、基準値、目標値を設定しての進行管理を行うこととし、指標を掲載しました。

最後に、資料として、スポーツ基本法、神奈川県スポーツ推進条例を載せさせていただきました。今後の流れにつきましては、11月にパブリックコメントを実施する予定となっております。説明は以上です。

よろしくご審議のほどよろしくお願い致します。

#### □委員長

それでは意見交換に移ります。あくまでたたき台になりますので、皆様から忌憚のない意見をよろしくお願い致します。

#### □委員

1頁に「序章」とありますが、これは、スポーツ基本法の一部から抜粋した文章か、それとも横須賀市として策定した文言を掲載したものでですか。

#### □事務局（主査）

本市、個別のものでなく、スポーツ基本法の一部を抜粋した文章です。

#### □委員

第2期実施計画には、学区体育振興会育成事業とあります。体育振興会に対して、具体的にどのような施策がされているのか知りたいです。

また、現状スポーツ推進委員の定数は322名と定めていますが、定員の枠の増加が可能かどうか知りたいです。私の学区はこれまで7町内だったのですが、2町内新たに増えました。指導員を各町内に1人ずつ配置しようとなると、現状1町内分、不足が出てしまいます。以前から要望を出しているのですが、その後の進捗状況をお聞かせ願います。

あと、スポーツ推進委員の定年は70歳ですが、高齢化も進んでおり、75歳まで延長しても良いのではないかと感じます。町内によっては人材が不足しているという声が届いています。

□事務局（社会体育係長）

スポーツ推進委員の定数につきましては、以前よりスポーツ推進委員協議会からも同様のご意見をいただいておりますので、近いうちに学区体育振興会にアンケートを取らせていただきます。その結果を、次回の委嘱の際の検討材料とさせていただきます。

定年の延長については、現在のところでは考えていない状況になりますので、ご理解の程よろしく申し上げます。

□委員

現状、定数を増やせないみたいですが、322の定数のうち、10人程、欠員が出ていると聞いております。欠員のある学区は枠を減らし、その分の枠を他学区に追加するなどの対応を検討してもらいたいです。

□事務局（スポーツ振興課長）

社会体育係長も申し上げたとおり、アンケートを実施して欠員の部分も含めて検討していきたいです。

□委員

昨年度から、定数を一枠増やして申請しているのでよろしく申し上げます。

□事務局（施設係長）

スポーツ推進委員の新しい任期ということで、各学区に委員さんの推薦を依頼しました。全体の定数との兼ね合いがあるので、必ずしもご要望に沿えるかは保証できなかったのですが、より多くの委員さんを推薦できる学区は、出来るだけ手を挙げてもらう様、ご案内しました。その結果、ある学区では1名多く推薦していただき、全体の中で欠員も出たため、その学区の委嘱数を増やしました。あくまで運用の中で対応した結果ですので、全体の制度につきましては、アンケートを実施し、参考にいたします。

□委員

私はスポーツ推進委員協議会の出身ですが、今お話にあった事情がこちらまで伝わっていません。推薦するのが体育振興会の会長であり、推薦で選出されてから協議会を作るので、選ぶ過程については報告がありませんでしたが、そのような事情があるのならば、事前に話を通していただくと助かります。こちらが把握をしていれば、体育振興会の会長含めて、協議会へその旨の連絡することができます。

□委員長

話を戻します。そのほか意見はありますか

□委員長職務代理

4頁の「スポーツを取り巻く現状と課題」について、市長が変わり、「スポーツで横須賀を元気に」という言葉をよく拝見します。計画には、大規模大会の誘致についての記載もありますが、国際大会やチャンピオンシップの大会だけでなく、交歓大会のような位置づけの大会も誘致をすれば、同様に大きな経済効果を見込めると思いますし、高齢の方も参加でき、生活習慣病に対しても考えるきっかけとなるのではないかと感じます。

□委員長

色々な課題があるかと思いますが、6頁の「子供の体力低下」について、小学校では、専門の体育の教員がおらず、担任の先生が指導しているのが現状です。「ゴールデンエイジ」と呼ばれる年齢の時だからこそ、専門的な指導が受けられる学校運営があれば良いのにと感じてしまいます。小学校の教員に専門的な知識を持つ方を採用することは現実的に厳しいのでしょうか。

□委員

専科の体育教員は、中学、高校に流れてしまうのかなと思います。また中学校と小学校との違いもあります。本小学校を例にとると、全職員のうち、担任のクラスを持っていない職員は2名のみとなっております。根本的に定数を変えない限り、専属の教員が体育の授業を行うことは難しいです。研究会としても、教員の技術の向上に向けての研修会を設けておりますが、各学校で学業面も力を入れているので、参加体制がなかなか取れないのが現状です。

□委員長

ありがとうございました。学校に専門教員を配置できるような対応が講じられればと思います。

□委員

中学生の体力では、大学教授にも助言をいただきながら、研究を重ねています。しかしながら、研究の成果が各家庭になかなか浸透していきません。例えば、栄養面の研究結果として、朝食の習慣化という点が挙げられますが、研究成果が浸透していないので、子どもに朝食を食べさせていない家庭はまだあります。栄養学の研修を生徒だけでなく、保護者に対しても手厚くしていかなければ、現状の改善はされません。我々も研究を進めていますが、結局のところ、栄養の母体を担う保護者の方へ伝わっていないと、子どもの体力は向上しないのではないかと思います。横須賀市内でも、子どもの体力はある程度伸びてはいますが、研究が実践で活かされていないと、最終的な伸び率に影響してしまいます。

□委員

子どもの体力低下や家庭環境についてですが、私が育った時代とは環境が大きく変わってしまっています。私が育った時は、食事の心配は全くなかったのですが、現代は親

御さんが忙しくなったこともあり、どうしても昔のような環境を整えることができません。そのような課題を改善していかないと、子どもの体力は回復していかないように思います。また、6頁に、「子どもの運動嫌い」などの記載がありますが、その通りだと感じました。

加えて、私の時代は遊び場がたくさんありましたが、今は減っています。学校開放についても、制限があります。子どもたちが気軽に遊ぶことができるような環境を作ってあげたいので、制限の緩和など、学校施設の使用の仕方について、再検討してもらいたく思います。

#### □委員

栄養面について補足ですが、中学校の女子生徒の体力が落ちているような話があります。本校だと、女子生徒の運動部の入部率は確かに低いですが、その代わりに吹奏楽部に入る生徒が多いです。楽器を一から始める子がほとんどなので、練習時間は運動部よりも長いです。そのような生徒にとっては、運動する機会は体育の授業が中心になるので、なおさら栄養面が重要になっていくと感じました。

#### □委員長

7頁のグラフだと、中学生が土日両日運動する割合は32.7%とあります。中学校の教員の部活動に関する業務負担が非常に多いという問題があるので、地域の専門的な知識を持つ方と学校とで連携を図っていただくと改善できるのかなと思います。学校教育の中に、地域の人が携わることに関し、まだまだ閉鎖的な考えもあるようですが、この辺の交流は必要であるように感じます。

#### □委員

生活習慣病についてですが、横須賀は小学校46学区あるので、各学区にウォーキングコースを整備すれば、運動の機会が増えるのではないと思うのでご検討ください。

#### □委員

先ほどお話にも挙がりましたが、市内の中学校、高校への外部コーチの導入は、どの程度進んでいるのでしょうか。

#### □事務局（保健体育課長）

市としては、少しでも教員の負担を軽減させたいということで、地域の方や元教員の方にもお願いして、学校で30名の指導員を派遣しています。他にもボランティアの方などで20名程度の方にお手伝いいただき、総勢約50名の方に関わっていただいております。国でも挙げられている問題であり、今年度中にガイドラインが完成することに伴って、横須賀市でも対応していきます。

#### □委員長

横須賀市にも専門的な技術や知識を持つ方がいましたら、大いに力を発揮してもらいたいですね。



□委員

学校開放奨励事業、新体力測定員の派遣事業と体育授業のサポーター派遣事業の記載が以前の教育振興計画スポーツ編の2期にはあったのですが、本計画にはありません。今後の進め方についてお聞かせ願います。

□事務局（スポーツ振興課長）

学校開放については、18頁上部に「学校開放施設の開放の在り方を検討し、施設の有効活用を促進します。」の中で事業を展開していきます。サポーター派遣事業等については、記載が漏れていますので、入れ込むような形で進めてまいります。

□委員長

第4章のスポーツ推進施策だと、市内でも大規模な大会を誘致するなどして、活発になっている気がします。大会を実施するためには、まず施設を確保しなければならないので、体育協会でも、実施の1年前までに詳細を把握している大会は情報を共有し、横須賀市内で、より多くの大会を開催する様、動きを取っています。それでも、施設の予約は各協会で行うため、会場が確保できないことがあります。団体同士で話し合っ、時には譲り合いをするなどの対応がもっとあれば、スムーズに事が進んでいくのかなと感じます。各団体で大会を横須賀市に誘致し、お互い調整し合うような関係が築ければよいと思います。

□委員

13頁に「スポーツによる地域の活性化を図ります」とあります。今年度行われた、ウインドサーフィンワールドカップにおいて、長沢地域は、非常に盛り上がりましたが、他の地域は、この大会が行われていたことを認知していなかったという声も挙がっていましたので、広報の充実化を図っていただけると良いのではないかと思います。

また、スポーツひのまるキッズ関東小学生柔道大会では、主催者側が、少ない人数で運営をしていることもあり、地域の商店街等にポスターを貼ったのも1週間前というような状況でした。このイベントはオリンピックのメダリストを招待するなど、非常に大きい大会なので、早めの段階から、広報を発信できるような体制を図っていただきたいです。

さらに、横浜 DeNA ベイスターズにつきましても、2軍施設を追浜に集約するので、情報を行政通じて発信することによって、市内全体の盛り上がりにもなるので、是非よろしく願います。

□委員

12頁の(7)に「大規模スポーツ大会の誘致活動を推進します」について、今年度はウインドサーフィンの大会もありましたが、今後、具体的にはどのような形で誘致をしていくのでしょうか。

□事務局（主査）

今後の大規模大会の誘致につきましては、スポーツコミッションなどを立ち上げて、進めていこうと考えております。

□委員

全ての競技団体を把握しているわけではありませんが、全日本選手権レベルだと、5年位先の大会まで開催場所が決定するため、施設の予約に関してあまり心配はありません。しかし、前回の会議でも話に挙げたように、現状の市内施設では、実施できない競技も多々あるとのこと。横須賀市として、今後、運動施設を新設していく計画はあるのでしょうか。

□事務局（スポーツ振興課長）

全くないというわけではございません。あくまで例ですが、ニッチなスポーツの施設の建設などを検討しているところでございます。

□委員

施設には利用目的という規定がありますが、利用目的の記載に含まれていない競技だと、全日本選手権のような大会でも使用はできないのでしょうか。

□事務局（スポーツ振興課長）

条例に規定されている利用目的は抽象的な文言なので、当てはまらない競技は少ないかと思えます。

□委員長

中体連の県大会を開催しておりましたが、実施できない競技がいくつか存在していました。県の大会なら、せめて横須賀市単独で開催できるようにしていかなければならないと横須賀市民として思えます。予算の事情もあるので、数年に跨いで投資するなどして、順繰りに施設を充実させてほしいです。

□委員

横須賀市の体育施設が完全に充実しているかどうかについては、詳しくはわかりませんが、個人的に既存の施設は充実していると感じております。ただ、官の事業であることを前提としても、民間との連携が、この計画の中で具体的な施策が見えてこなかったです。市の施設を団体利用する際に、「営業目的では利用できない」と明記されていますが、現実を考えたときに、非常に限定されてしまうと思います。日本全体の課題として、どうしても感覚的に、「官」が正義で「民」が悪のような捉え方をされてしまう部分があるとは思いますが、実際にスポーツを推進していくうえでは、(4)にある、「国際大会等で活躍する横須賀育ちの代表選手の輩出を目指す。」際に、学校体育の流れの中では限界があると思います。水泳でも、オリンピックの選手を育てるのは、学校体育の中だけで育てているのかといえば、決してそうではないという歴然とした事実があります。そ

ういった意味では、「誰もが気軽に」や「競技者の活動を支援する」、「国際大会で活躍する」などの点は、民間との連携がないと難しいように感じます。今後、そういった部分が開かれたものにならないければ、目標としては達成できないように感じます。その辺はデリケートな問題であることは重々承知ですが、学校施設も含めて、施設の利用について検討が必要です。例えば、学校施設の開放について、都内だと非常に発展しているように見受けられます。具体的な施策を今回の計画で盛り込んでいけるとありがたいです。

それから大規模スポーツ大会の誘致ということで、具体的にウインドサーフィンワールドカップが挙げられますが、この大会はどういった形で組織や実行委員会が作られていたのでしょうか。

□事務局（スポーツ振興課長）

ウインドサーフィンに関しては、もともと ANA の社員提案で、「横須賀でウインドサーフィンをやってみてはどうか。」という提案があり、社内コンペで採用され、横須賀市に話が来たという経緯です。

実行委員会は横須賀市と ANA、その他関係する企業団体さんと組織を組んでいました。

□委員

実行委員会の事務局はどこに置いていたのですか

□事務局（スポーツ振興課長）

事務局は政策推進部の政策推進課に置いていました。

□委員

私も滝川委員の意見に賛成です。全国的にみると、民間と協力して成功している自治体がありますので、そういった例を事務局で見えていただいて、良いところを計画に取り入れていただければと思います。

□委員長

皆様ありがとうございました。他にご発言はございますか。

⇒なし

それでは、平成 29 年度第 2 回スポーツ推進審議会を終了いたします。ありがとうございました。